



管理運営の基本方針

東京2020大会の競技会場という特性を生かした運営を通じて、都民の健康長寿や地域の活性化を実現し、大会のレガシーを次世代に確実に継承

「水泳の聖地」としてのプレゼンスの確立と競技力の向上

- 日水連・構成団体Dとの連携を通じ大規模かつハイレベルな大会を誘致
- 氏や 選手らのトップスイマーと連携した事業を展開
- アスリートファーストの視点で、辰巳と同様に世界最高の水環境を創造

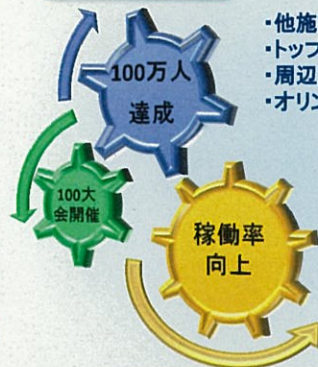
誰もがスポーツや健康増進に取り組むことができる場の創出

- 誰もが気軽に、安心してスポーツや健康増進に取り組める環境を提供
- スポーツ医学の視点を取り入れた健康増進プログラムの実施
- 適正な価格でより質の高いサービスの提供

周辺施設との連携による賑わいの創出と都民利用の促進

- 周辺施設との連携により、賑わいを創出し、都民利用を促進
- シャトルバスやシェアサイクルの活用により、周辺施設との相互利用を促進
- レクリエーションから競技利用まで、広がりのあるスポーツ空間を形成

重点目標



- ・他施設との差別化
- ・トップアスリートとの交流
- ・周辺施設との連携
- ・オリンピックギャラリーの充実

- ・日水連との連携による大会誘致
- ・サブプールや可動壁の有効活用

- ・利用者サービスの充実
- ・団体利用向け早朝時間帯の設定
- ・ダイビングプールの積極活用
- ・時間外の撮影等の受入

運営方針

- ① 東京都のスポーツ振興施策との連動
「する・みる・支える」の視点から施策を展開
- ② 地域の賑わいへの貢献と収益性の確保
・ニュースポーツの中心地としての認知度向上
・施設の有効活用、企業広告等
- ③ 競技団体との連携による競技力向上
・構成団体Dとの連携により全都的な強化練習会等を実施
- ④ 施設のサービス・魅力向上に対する改善
- ⑤ 東京2020年大会の成功に向けた万全の態勢
- ⑥ 利用者の安全安心を最優先した環境づくり

これらの方針に基づき、施設の提供・運営をはじめ、様々な事業を展開

施設の提供・運営

施設の提供(休館日・開場時間/利用調整/料金)

利用者ニーズを踏まえて休館日・開場時間を設定

- 専用使用について、利用時間の繰上・延長に柔軟に対応
- 夏季の早朝開館の実施、平日・土曜夜間の閉館時間の延長
- 大規模大会の少ない月にメンテナンス休館を設定

専用使用における細やかな利用調整により施設を有効利用

- 都内近郊における大型水泳場との連携による受け入れ調整
- 一般受付で「アスリートの強化・育成」に係る利用を優先
- レーン貸し・面貸しにおいて高い公平性を担保する抽選方法の適用
- 一般公開日を早期に設定し、利用者への十分な周知期間を確保

可動壁・床を活用し、個人のニーズに合った利用機会を確保

利用目的に応じた適切な料金設定

【専用使用】

- 条例を基に基準値を設定し、一定の法則を以って利用料金を設定
- 競技会等の貸切使用を想定し、割安な「全日」の料金区分を設定
- 様々な利用シーンを想定した料金区分を設定

【個人利用】

- セット料金を設定することで、わかり易さに配慮
- 高齢者割引等、多様な割引制度の導入

多様な決済方法の設定

- 既存の都立スポーツ施設と同様の料金徴収方法を適用
- 窓口や振込など、ニーズに合わせた支払い方法に対応
- ICカード等の電子マネーによる決済への円滑な対応

エリア毎の運営

【プール】全ての人が安心・安全・快適に利用できる空間を提供

- 施設・設備を最大限に活用した運営(50m、25m、1/4面設定)
- 吊りボタンを活用したネットの設置による防球対策
- 利用者動線全域をカバーする監視体制による安全確保と事故防止
- 法令以上の自己管理基準を設定し、水質管理を徹底
- 有資格者による品質評価を実施し、より高い衛生環境を維持

【飛び込み用トレーニングルーム】安全を最優先した運営

- 利用団体の資格の確認、保険加入義務付けによる安全管理の徹底
- マニュアルに基づく設備の定期点検
- 構成団体Cによるノウハウを活用した競技人口の拡大と認知度向上
- 構成団体Dによる指導者の育成を通じた利用団体の拡大

【トレーニングルーム】個人の状況に適した環境の提供

- 一定の資格を有するスタッフの配置と教育の徹底
- 出勤時の心肺蘇生法(CPR)訓練の実施
- 水泳競技を意識したトレーニング機器の導入
- 指導者向けに専門性の高いトレーニング講習会を実施
- 初心者を対象とした無料プログラムやレッスンの実施



施設内サービス・東京2020メモリアル展示

全ての人が利用しやすく、わかりやすい施設

- 利用者目線に立った窓口の配置
- わかりやすい案内サイン等の表示
- 外国人・障害者等への丁寧な対応
- 多様な手段で利用者の意見・要望を把握
- PDCAサイクルに基づく継続的な業務改善
- 苦情・要望等に対する適切な対応・公表
(対応マニュアルの共有・研修の実施)
- 他施設の事例共有を通じたサービス向上
- 「おもてなし規格認証」の取得推進



観る人の記憶とともに新たな発見が得られるような空間を創造

- 東京2020大会の関連資料や記録、獲得したメダル等の展示
- VRを活用した体験やタッチパネルディスプレイ等のICT機器による展示
- 大型スクリーンで東京2020大会等のハイライト映像を放映
- 駒沢オリンピック公園のオリンピックメモリアルギャラリーとの連携
- 多言語表記や外国語による音声案内ツールの導入



事業の提供

スポーツ振興事業

スポーツ都市東京の実現に向け、東京都のスポーツ施策に沿った事業を展開

- スポーツ実施率70%の達成に向け、対象を明確にした事業展開
働き盛り世代・子育て世代・高齢者世代層に向けた機会の創出
- 世界最高水準の環境を生かした競技力の向上
水泳愛好者に対する指導、指導者の啓発、障害者アスリートの競技力向上等
- スポーツを通じた共生社会の実現に向け、ダイバーシティを意識した事業展開
ユニバーサルスポーツの振興、障害者スポーツの振興
- トップレベルの大会の観戦や一流選手との交流を通じた地域の活性化
国際大会や日本選手権への観戦招待、オリンピック等による水泳教室

自主事業

ニーズに対応した多様なプログラムで生涯スポーツの拡がりを支援

- 周辺住民の実態調査・分析に基づく効果的なプログラムの提供
- 子供や子育て中の女性、高齢者等、利用者層に応じた様々な教室を実施
- スタジオを活用してエアロビクス、ヨガ教室等を実施し、健康づくりをサポート
- フリースクール方式の導入による利便性向上
- 利用状況やアンケート結果に基づく定期的なプログラムの見直し
- ワンポイントアドバイス、スイムチャレンジ記録会の実施
- 周辺地域との連携による「体育の日記念事業」の展開



「水泳の聖地」としての魅力を活かした効率的・効果的な広報活動でPR

- メールマガジン、Facebook、Twitterや広報誌など様々な媒体を活用
- 施設要覧や施設利用ガイドの作成・配布、広報資料の多言語対応
- ホームページやスマートフォン専用サイトへの情報掲載
- インターネットでの施設利用申込の受付(24時間)



周辺連携事業

多彩で魅力的なプログラムを展開し、にぎわいの創出やレガシーを醸成

- にぎわいの創出
周辺施設と連携したニュースポーツイベント、ヨガフェスタ、フォトラリーの開催
- 施設及び公園の相互利用促進
ドッグランやバーベキュー広場、少年広場、ラグビー練習場等との連携
- 利用しやすさのための改善
シェアサイクルによる利便性向上、鉄道事業者等と連携した案内等の充実
- 近隣公園、地元警察・消防との連携による地域の安全・防災機能の向上
- 清掃を兼ねたウォーキング大会や学校の絵画作品の展示等による地域貢献



利用者サービス事業

利用者満足度を最大化するための良質な施設サービスを提供

- 施設利用者向けサービス
 - ・シェアサイクルポート
 - ・シャトルバス
 - ・コンビニタイプの売店
 - ・コインロッカー
 - ・駐車場、駐輪場、自販機等
- エントランスの活用(右図)

3階	地域住民・子供 企業	▶ 地域イベントや企業の展示会場として貸出し ▶ 営利目的での動画・写真撮影場としての提供
2階	観客・待機選手	▶ 自動販売機・コインロッカー、机や椅子の設置
1階	個人利用者 選手・大会関係者	▶ 水泳関連用品の販売・レンタルショップ ▶ 飲食物自動販売機・椅子の設置
屋外	企業	▶ 営利目的での動画・写真撮影場としての提供

- ウェブアクセシビリティの向上(JIS規格の適合レベルAAA達成に向けた取組推進)
- 東京都や組織委員会の広報(プレス、取材等)への協力
- スポーツ情報コーナーの設置
体育・スポーツ・健康づくり、東京2020大会等に関する情報提供(書籍・雑誌等)
- 総合受付における案内・対応



施設・事業の運営基盤

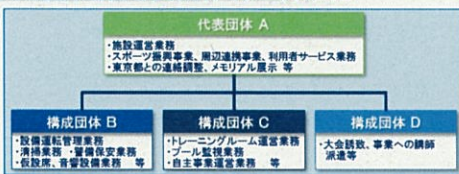
盤石な組織と経験豊富な管理体制

支援

経験則と綿密な試算に基づく経営管理

業務ごとにライン化した組織体制による効率的・効果的な施設運営と責任体制の明確化

- 関連業務をまとめた部門を設置することで役割分担を明確化
- 館長をトップに、団体使用、個人利用、維持管理の業務をライン化し、それぞれに統括責任者を配置



適切な勤務体制・人員配置による業務品質の確保

- 大規模大会等の開催時は、観客数の予測に基づき、グループ内で応援スタッフを調整するなど、最適な人員を確保

充実した教育研修を通じ水泳の聖地にふさわしいスタッフを育成

- 安全管理、接遇、外国人・障害者対応等、幅広くスタッフの資質を向上

類似施設における経験とノウハウを生かし、安全・安心・快適な環境を提供

- ハザードマップの作成・運用や警備・清掃スタッフの巡回等を通じ、内外の安全管理を徹底
- 医療施設における維持管理業務実績を生かし、清掃業務における感染症予防策を展開

効率的な維持管理を通じ、都民が誇りを持てる施設づくり

- ITを活用した保守・点検データの一元管理により、予防保全と施設の安定稼働を確保
- 経年劣化防止、光熱水費削減、省エネを通じ、施設のライフサイクルコストの縮減に寄与

あらゆるリスクを想定し、迅速かつ適切に対応できる体制

- 消防計画に基づく防火・防災体制の構築と定期的な訓練、サイバーセキュリティの強化
- 施設賠償責任保険への加入、防犯カメラの増設による監視体制の強化

開業時の適切な運用を通じ、東京2020大会のレガシーを次世代に継承

- 省エネ・緑化推進等の環境負荷の低減、ISO50001の認証取得に向けた取組推進

厳格な個人情報保護マネジメント体制を整備・運用



大会の積極的な誘致や東京2020大会のレガシーを生かし、収益を確保

収支計画の考え方

- 収入の一つの柱として、東京2020大会の会場という優位性を最大限活用し、大会を積極誘致
- 来場者や収入増につながる事業の展開や広告宣伝等により、大会レガシーや施設の価値を定着・向上
- 「国際・国内大会誘致目標100大会」、「来場者目標100万人」を前提に収支を算定
- 低コストで良質なサービス、投資効率を意識した支出計画、実現可能性を考慮した収入計画
- 「施設サービス魅力向上プロジェクト」や「見える化改革」、「仕組み改革」を踏まえた新たな視点での検討
- 辰巳をはじめ、類似施設を含む様々な施設の運営を通じて培った実績をもとに実効性を精査
- 赤字が発生した場合は、団体全体で補填しサービスレベルを維持、黒字の場合は施設の価値向上に還元

指定管理料

539,796千円

収入確保に向けた取組

- サブプールの有効活用、大会時の選手動線の見直し等による稼働率の更なる向上
- 興業イベントの誘致、夜間の撮影利用の受入れ
- 企業広告の受入れ、助成金の活用
- 販売手数料増に向けた売店サービスの充実
- 未利用スペースの活用策の検討

支出削減に向けた取組

- 太陽光発電設備、地中熱ヒートポンプシステム等の再エネ・省エネ設備の活用
- 設備の効率的な運転、電力自由化の受入検討
- 消耗品の購入における他施設との一括購入
- 辰巳との一体管理による経費縮減